

東濃西部少年センター



		多治見	瑞 浪	土 岐	センター	合 計	少年相談
1 月	指導件数	5	3	0	0	8	電 話 0
	内女子件数	0	0	0	0	0	メー ル 1
	声かけ件数	634	35	291	150	1,110	合 計 1
2 月	指導件数	4	0	0	0	4	電 話 0
	内女子件数	4	0	0	0	4	メー ル 1
	声かけ件数	522	36	210	120	888	合 計 1
4月~2月 合 計	指導件数	36	45	32	0	113	電 話 37
	内女子件数	9	14	3	0	26	メー ル 19
	声かけ件数	5,162	1,564	3,697	810	11,233	合 計 56

〈センターより〉

2月は比較的天気恵まれ暖かい日が続きましたが、思いがけない大雪に見舞われる日もあり、指導員の皆様には大変難儀をされたことと思います。

2月中の指導は、中高生らしい女子の喫煙が2名と、小学生女子のゲームコーナーでの遊び2名の計4名でした。

卒業して春休みに入ると、若者の喫煙や公共の場で座り込んだりするケースが多くなると予想されます。指導員の皆様はきめ細かい巡回指導をお願いいたします。

〈指導日誌より〉

※多治見地区

- ・ゲームコーナーにて小学生のみで遊んでいた。東濃地区生徒指導基準に基づき帰宅を促す。
- ・多治見駅南口階段下左隅で、座り込んで喫煙している女性。年齢を18才というも、直ちに15才であると聞き直る。だまって、火を消して立ち去る。
- ・制服の黄色のジャンパーを見て、急に方向を変える者、目障りそうに挨拶を無視する中・高生もいた。

※瑞浪地区

- ・旧西尾土木の建物に、新しいゴミ(ジュース・ビール缶)があった。
(廃屋に又集まってくる者が居るらしいので、センターで早急に視察することにする)
- ・土岐川に放置されていた自転車2台。市の環境課へ連絡し、回収してもらった。

※土岐地区

- ・土岐市駅前にて、煙草を吸っている男性(成人)が、目前で吸いがらを消さずに捨てて行ったので驚きました。注意する間もありませんでした。

生き方サプリメント101錠

「ありがとう」は魔法の言葉

私たちは一日にどのくらい「ありがとう」と言っているのでしょうか。当たり前のように思っていると、「ありがとう」という言葉は出てきません。当たり前の状態を「空気や水のようなもの」ということがあります。その空気や水がなくなったら大変なことです。当たり前のことにも「ありがとう」いう気持ちを持つと、当たり前ではないことにはさらに深い「ありがとう」という気持ちがわいてきます。

みなさん、読んでくださっていて「ありがとう」。 村瀬登志夫先生のおくりもの

多治見地区指導部班長会の報告

3月12日(土)、震災の甚大な被害に国内は騒然としていました。多治見地区は班長のほとんどが出席(14名中12名)をして、今年度最後の指導部班長会を文化会館で開催することができました。

その概要を紹介します。

少年センターのあり方については、平成21年度から広域での検討会議や担当課長会議、さらには定例の運営協議会で審議・検討されました。

この事実をふまえ、会の冒頭では、市民文化課の伊藤課長より、23年度からは広域的な視点に基づく、指導活動の充実と実践が大切であるとのこと指摘いただきました。

また、22年度の活動報告や会計報告等に続いて、街頭での指導活動からは、今後の活動に生かしていきたい貴重なご意見を、多数いただきました。その一部を報告します。

- ・ 年度当初、班の全員で学校へ出向き、挨拶をかねて顔つなぎをしている。これは、後々の学校との関係を深めるためにも役立っている。
- ・ 街頭指導の最後には、必ず学校に立ち寄る。これは、下校時の子どもに声をかけ、言葉をかわして顔なじみになれる。後々の指導には有効な手立てとなる。また、その時の学校職員との接触で、指導活動への理解を深めることにもなる。
- ・ 6月の新任研修だけでなく、5月の委嘱式の後でも、全ての指導員に対して、最低限守らねばならない「指導の心得」を周知徹底してほしい。たとえば、街頭での指導活動には努力して参加する。できない場合は、必ず班長にその旨を連絡する。これは社会人としての当然のルール。改善されない場合は、センターから本人・該当校などに働きかけてほしい。
- ・ 効果的な指導日を設定するためには、年度当初に市内小中高の学校やPTAの年間行事計画を知っておく必要がある。
- ・ 子どもに出会える工夫として、中学校の下校時に合わせて国長橋で待機する。池田校区の生徒には、この橋が唯一の通学路であるから、地域のすべての生徒に声かけができる。
- ・ 指導時にグッズがあると子どもとの接触がしやすい。予算をつけて考えてほしい。
- ・ 街頭指導で感じるのは、大人のモラルが低下していること。指導員を増やし、多くの人を経験することで、自らを見直すきっかけにならないか。

【センターから】

- ・ 今、子どもや若者に出会わないということが、全体の共通した問題になっています。誰にも出合わない場所や時間帯に活動しても意味がないわけで、その解決策を班の実情に応じて考えていただきたい。たとえば、登下校時の校門前とか、高校生が集まる駅周辺とか、駅前に集中する進学塾の退け時とか、巡回エリア・時間帯の見直しを再検討していただきたい。
- ・ 従来、委嘱式後の各地区指導部の会議で、各班ごとに年間の活動予定表を作成していましたが、23年度からは、3か月ごとに予定表を作成し、実態に合った活動計画による街頭指導をお願いする方針です。